

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念を作り、個々の価値観を尊重しつつ日常生活の中で、地域社会との交流を深められるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>住み慣れた地域で、出来る限り地域の行事に参加する等して、楽しくなごやかに生活できるよう支援し、基本理念にも組み込んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関及び各フロアには常に目に付く位置に掲げている。又、カンファレンス等でも協議し、取り組みに関しての意見を出し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明し、家族会等においても話し、意見を聞いている。運営推進委員会を設け地域にも浸透するよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族会、運営推進委員会、誕生会、クリスマス会、夏祭り等を行う際に、出来る限り家族の方々、近所の人たちに参加してもらいグループホームの暮らす様子をバイキングをしたり食事をしながら話し合っている。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事への参加呼びかけ等を行っている。出退勤時に挨拶、利用者との外出等小さなことから取り組みを続けている。</p>	<p>○</p> <p>日常的なつきあいとしてちょっとよってきて施設でお茶を飲んで行ったりとか、地域の夏祭り、秋祭りなど、行事を行う際に出来る限り参加し、こちらも参加できる地域活動に積極的に取り組んでいる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域行事への参加(夏まつり、秋の作品展ほか)への参加。又、自施設の行事参加への呼びかけを行っている。また、参加もしていただけている。</p>	<p>○</p> <p>夏祭り、クリスマス会など、地域の人々に連絡をとり、参加して頂き、ボランティアの方々、老人会の方々に協力を得て、腹話術、銭太鼓などを披露している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>老人会を通して高齢者の介護予防体操の指導に行くよう話し合っている。 (地域高齢者の生活相談業務の取り組み)</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>在宅生活に少しでも近づけるよう、又、細かなケアが出来るように努力をしている。又、役員会、家族会、運営推進委員会でも話を出して協力を得たい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>今一層に会議を通しての地域への浸透、多くの意見が出るような働きかけを行っていきたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>権利擁護委員会を20年度に立ち上げる準備をしている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>20年度には施設内委員会立ち上げに向けての勉強会実施。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>入念な説明を行い、家族や利用者等の疑問点があれば充分説明を行って理解を得ている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動については特に利用者への精神面での配慮は行っている。徐々に馴染みの関係をつくる。また、認知症の特性についても随時理解を得るよう指導している。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の方へ積極的に参加してもらっている。必要に応じて新任研修から介護計画、介護ケア等に関する研修にも出来る限り参加している。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の市におけるグループホームの連絡会へ参加しており、活動の中での具体的なことを持ち帰って報告して話し合っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務状態により、定期的な休みを設けている。年に数回の親睦会を行いストレスの緩和に努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は各々の能力に応じた研修の受講を推進している。又、各々の仕事に対する考えを聞き、アドバイスや支援を行って向上心を持たせるよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメント、他施設からの情報、家族からの情報などを参考に入所前面接を実施し、本人の心情心身の状況等を可能な限り聞き取り、入所後の生活に反映されるように努めている。</p>	<p>入所前の面接において家族さん、本人から聞き出せない部分を新たに見出しどんなことでも話せる信頼関係を築いている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前面接において家族の思いや希望を必ず聞き、施設の対処方法についても説明している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の希望を聞き、納得出来るような支援の方法を見出し、サービス内容の説明を行っている。</p>	<p>利用者さんの状態を見極め、可、不可を相談しながら随時検討している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前カンファレンスを行い、本人と家族の希望、サービスの方法等を協議する。 入所前の生活リズムにできるだけ近づけるようにしている。</p>	<p>サービス利用前には十分な説明をし、納得してもらった上で希望があれば試してもらうことも可能である。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>同じ目線に立ち寄り添うことで話しやすくし信頼関係を築くように努力している。</p>	<p>寄り添うことで多くの学びも得られると思う。もっと寄り添う時間を持ちたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面接時利用者への想いを聞いて共に話し合い、分かち合えるよう係わっている。		利用者の不安が続いた場合、家族に訪問して頂き、訪問が困難な時は電話などで声を聞いてもらっている。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの行事など家族にも声かけし、共に楽しんで頂き親しみを深めていくようにしている。		面接や面会のときに出来るだけ詳しく利用者や家族について話を聞き、理解できるように努め、ケアプラン等に生かしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入所するまで必ず行っていた事はしてもらうよう支援している。当日の体調を考慮しながら家族と連絡がとれている。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	好みとか特技など個々の特性をスタッフが理解し、介入することで個々の関係を良好になるように努めている。		コミュニケーションが困難な場合は職員が仲介に入り代弁したりしてスムーズにコミュニケーションが取れている。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の利用者の状態は常時気にかけている。その後の様子を家族さんから受けている。		他施設に移られた時は面会にも行かせてもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いを取り入れている(家族)。 意向が聞かれない場合はそのときの想いを察し 少しでも近づけるようにしている。</p>	<p>利用者の思いを尊重し、積極的に取り組んでいる。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族面接時には生活歴やこれまでの暮らしぶり など尋ねたり積極的に利用者からの話を聞き把握 している。</p>	<p>好きなことが出来るよう意欲の引き出しに取 組んでいる。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日課表、活動記録をもとに一人一人の生活ぶりを把握している。 状態確認表を記録している。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族様の想いや希望を聞き課題は関係者と本人、家族が話し合いをしてケアのあり方を決定し介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の希望があれば出来るだけ叶えられるようその都度話し合っている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態が変わり見直しが必要ならその都度ケアプランを作成している。転倒、病気等、入院治療後のケアは意志の指示のもとでアセスメント作成している。</p>	<p>月1回ケアカンファレンスを行っている。 変化時、必要なケアを取り入れるよう話し合っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、話の内容、小さな変化、ケア時、気になってことを記録し情報を共有している。特に変わったことは詳しく記入し常時ケアのあり方について話し合い実施している。</p>		<p>昔の話や利用者さんがしていた仕事など話の中から個人の存在感を引き出している。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人が出来ることを把握し意欲が引き出せるような支援をしている。家族の状態により施設がかわって出来ることはしている。</p>		<p>地域が行っている毎年恒例行事には参加している。利用者さんからも楽しかったね～との言葉は聞いている。</p>
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>身寄りの無い方などは知人、民生委員との情報交換している。 市の相談員(オプスマン)の方2名が毎月訪問され、話とか手作り作品など一緒に過ごしている。</p>		<p>市内で行われているパンフレットなども取り寄せている。(広報など)</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>病院や他の施設サービス事業者などと話し合いサービスを利用するために連絡は取り合っている。</p>		<p>体験入所、体験利用など実施している。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとは毎月の事業者会議で認定更新、地域包括支援センター、緊急対応依頼の相談などの交流が多くあります。</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信時は必ず家族と相談し、対応している。主治医とも良好な関係が築かれ、往診（協力医）等の対応も可能である。		協力医との良好な（協力的）関係
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院が認知症の専門医である相談事があれば受信した診断や治療を受けられるよう支援している。		受信時には家族に連絡している。必要あればきて頂くようにしている。受信結果は必ず報告している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設の看護師に相談しながら日常的な管理を行っている。		その都度相談できる体制が整っている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から医療機関と密に情報交換している。状態に応じ安全なケア方法を話し合い早期退院に向けて取り組んでいる。		入院時は施設での生活状態やADLに関する情報提供している。家族、病院側から現状報告を受け施設での生活に向けての情報を随時受けている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の状態を家族やかかりつけ医に報告し相談している（早めの対応）。その人にあったケアの方針を共有している。		家族の希望を第一にしている。対応が出来なくなった場合のことを事前に家族、医者に相談している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること出来ないことしっかり話し合い、かかりつけ医と協力しながら支援に取り組んでいる。早くから変化に備えた検討をすべての利用者とは十分にできていない。		利用者によっては早い段階から規定に検討を十分にしていないため、話あっておく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移住の際は家族やケア関係者と十分に話し合い利用者にとってもっとも安心出来るような環境作りを考えていくようにしている。</p>		<p>家族、関係者からの情報を収集しダメージを少なくする為適切なケアをしていく。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライドに考慮した声かけをしている。目線を同じにして安心できるような対応をしている。行動、言動、暮らしぶりはありのまま記し勝手に尊さを感じない内容を記入しないようにしている。</p>		<p>個人情報には特に気をつけている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者との会話の中から希望や願いに耳を傾け話し方や意思表示の仕方でも好み希望を把握している。表情や反応も注意深く観察している。</p>		<p>受容の気持ちを持って向き合っている。意思決定出来ない場合は助言を行い自分の思いに近づけるように支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務に追われることが多いが不憚な方に対してはより添い少しでも長く話が聞けるよう努力をしている。</p>		<p>朝、昼、夕の食事時間以外の摂取等については居室にて又、リビングにて当人の想いに応じた対応をしている。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけのお店など家族さんの協力を得て行ってもらっている。 施設には毎月訪問利用が訪れ意向を聞きながら美容を行ってもらっている。 意思伝達不可能な方は家族さんにより対応させていただいている。</p>		

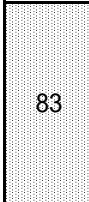
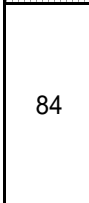
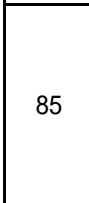
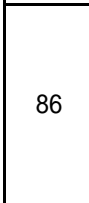
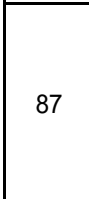
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>その他、季節行事の一環としてバイク形式や遠足(外食)等で食事提供をする場合も有り、好きなものを食べる楽しさを感じて載っている。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>店内商品並びの風景等を楽しんでもらい、好きな物を自由に探して載っている。(散歩、外気浴を兼ねる)</p>
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>失禁のある利用者に対しては昼間の布パンツ+安心パッド等も必要に応じて使用している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>入浴中会話を楽しんだり、歌を歌ってゆっくり入ってもらう(利用者に合わせて対応)。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>季節に応じて、暖房、冷房などを使用し、本人希望にて電気毛布、湯たんぽ等を使用している(室温、空調等気をつけている)。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>個々の利用者の出来ることを見出し機能に応じた出来ることをしていただく(よく話し、よく笑えるようにコミュニケーションをとっている)。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、家族に相談して決めています。ほしい物を書き出し必要な物は買い物に行くようにしています。		おやつや日用品等を購入する場合は、食べられる範囲内で金額を出してもらっている(相談に応じて)。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞き、欲しい物の買い物は家族の了解を得た上で体調を把握しながら外出の機会を持って、気分転換を兼ねて買い物等に行っている。外出困難な利用者も車椅子などを利用して外気浴を楽しんでもらっている。		外出の希望を聞き、一人ひとりが納得してもらうように努力している。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	旅行などの際は家族と話し合い、出来る範囲で外泊などしていただいている。花見、遠足なども計画し、行っている。		利用者の体調を考え天候等共に休日の職員がボランティアで参加して行く。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員見守りにて必要に応じ電話かけてもらっている。押し間違え時にはもう一度かけ直してもらっている。手紙も書いてもらって郵送している。		電話は本人の希望があれば家族の了解を得て、会話出来るように、又手紙の場合は、可能な限る利用者本人に書いていただくように支援にしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるような雰囲気をつくれるよう努めている。必要あれば職員が入り、仲をとりもち楽しく過ごせるよう支援している。		必要に応じ職員が入り、利用者様の生活など話す。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権を守り、安全にどのようにケアをするかを家族や関係者と話合っている。すべての職員が身体拘束について認識できている。		常に利用者様の行動等に注意深く把握する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に入出入りできる様にしている。利用者が出て行きそうな雰囲気を感じたら止めるのではなく、一緒に行くなど、安全に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。		一日中各居室の鍵はかけていない。鍵をかけることによる心理的な不安や閉鎖感があることを認識している。常に居室確認を行っている。フロア外はスタッフ同行。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を常に把握し、夜勤者は時間を決めて巡回を行い安全に生活できるようにしている。		常に利用者の所在確認。居室訪問。声かけ続行。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の保管能力に応じ、はさみ、ナイフ、針等を居室に置く場所は常時確認している。管理が難しい方は職員が預かり、使用時は一緒に使うようにしている。		物品の保管場所の確認と使用時の見守りをする。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生したときは即時に適切な対応し、後に事故報告書を作成する。職員会議を開き無事故を目指し最新の注意を払うよう職員に伝えている。		個々の状態確認及びスタッフ同士の連携した申し送りや事故防止に対する意思力を高める。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルを作成している。適切な対応方法の勉強会を行っている。年1回、心肺蘇生法訓練を行っている。		定期的な訓練を行い、全職員が理解し迅速な対応ができるように努める。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火訓練を行っている。昼夜問わず、避難訓練できるよう職員全員が周知している。		春、秋の年2回消防署に来てもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、家族と十分話し合っている。拘束や鍵掛けはせず、絶えず声かけ見守りを行っている。特に転倒の防止に気をつけている。		利用者は、理解力、記憶力の低下の方が多い。見守り声かけは勿論のこと、家族会の時にその状況をお話し、納得と理解を得ている。今後共に事故を未然に防ぐ努力をしていきたい。
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をよく把握し、変化や異常の発見時には速やかに報告し合い、早期対応に努めている。家族への連絡も速やかに行っている。		情報を共有に利用者にとって何が必要か速やかに対応している。
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を見て把握している。利用者に副作用がある時は医師に相談し支持に従っている。薬の服用時には本人に声掛けし、手渡しして飲むまで見守っている。		服薬時、日時、名前等を確認して渡し、飲むまで見守り水分補給等も進めている。(周知ノートへの記載を行い、誤飲や飲み忘れを防ぐ)
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分補給と体調に応じた運動を行っている。薬の服用は身体機能を衰えさせたりするので、便秘の原因を探り、個々に応じた支援をしている。		水分補給や運動を心掛けている。コップでは飲みにくい方に対しては、ストローや吸飲みなど工夫している。出にくい方は腹圧マッサージなどを行い、腸を動かしている。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の洗浄は自分で出来る人は、職員の見守りにて行ってもらっている。食後のうがいは毎日励行してもらっている。自分が行うことが難しい利用者には口腔ケアの重要性を理解して頂き、職員が行っている。		個々に合った支援を行っている。義歯の形や破壊には十分注意している。声かけしながら嫌がらないように心掛けている。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下で献立を作っている。水分摂取量を毎日チェックしている。食事時間、水分補給などは決まった時間に摂ってもらっている。		状態確認表を作成し、食事や水分補給の記録を取ることで個々の状態把握につなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルの作成。勉強会の実施。感染症発生時の必要物品を常備している。毎年インフルエンザ予防接種をしている。		勉強会の実施。スタッフ一人ひとりが感染予防の心がけをする。手洗い強化、うがい施行。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、乾燥機にて消毒を行っている。新鮮な食材を使うために、二日に一度買い物に行っている。日付なども確認しながら調理している。		コップ、まな板、布巾等は夜勤者が毎日漂白や乾燥機を使用している。冷蔵庫チェックも重視している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾るなど家庭的な雰囲気作りをし誰でも入りやすいようにしている。		玄関先には花を植え、喜んで戴けるよう工夫している。表札も利用者様の手書き物を使用している。裏には畑をもうけており、より親しみやすさをだしている。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺が田園に囲まれている為、季節間を感じ取ってもらっている。菜園で季節に応じた野菜を作ることが出来、居心地を良くする為に様々な工夫をしている。		ベランダを活用し、草花や野菜を栽培している。毎回の水やりは役割を決め、利用者が行えるよう支援している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを設置し、又はリビングにはソファや和室があり、入居者が一人、又は数人で思い思いに過ごせるように椅子やテーブルも工夫し配置している。和室には座卓を置いており、利用者が気の合う方と宴がるようにしている。		座敷、リビングには2, 3人で宴げる空間を設け、利用者同士が気の向いた時に気の合った人と過ごしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83  居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には今まで使用していた家具、衣類、食器などを持ち込んでもらい安心して居心地よく暮らしてもらえるようにしている。家族と過ごす時間も思い出の品を目にしながらか話せる環境づくりを心掛けている。		たんすやベッド等、個々のニーズに合った物を使用。テレビやその他必要に応じて持ち込み自由にしている。
84  換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には特に気をつけている。空気清浄機を使用しているが出来るだけ自然の空気を取り入れるようにしている。温度調節は、個々の利用者に合わせて職員がこまめに行っている。		出勤者は必ず湿度調整を行い、利用者の体調に考慮している。利用者本人に体調確認、湿度等、声かけしながらしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85  身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ支えの台や手すりを設置しており、場所が分からない場合は大きく表示したり、安全性に配慮して分かりやすいものを置くようにしている。		常に身体機能の変化に注意し、家具等の配置を考えている。
86  わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が個々に出来る事を把握しており自立に向けての支援をしている。居室の入り口付近には自らの作品の名札などをかけたり、トイレなどの目印となるものは職員と一緒に作ったものを使っている。		一人ひとりの居室に絵や折り紙をつけたネームプレートを掛けている。リビングのテーブルには、自分の場所が分かるように利用者の名前を貼っている。
87  建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	個々の部屋からベランダへ出ることが出来、季節を感じて戴いている。屋上や施設周りは散歩の一つとして利用している。畑や田んぼ等近所の花などを見て楽しまれている。		屋上は、夏祭りイベントに利用している。ベランダは個々が下着などの洗濯物を干せるようにいかしている。建物の外周は、散歩コースの一つとして取り入れている。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の立場を尊重し、会話を増やし、納得してもらえるように介護する。
- ・日々利用者同士が仲良く、笑顔を絶やさない生活を支援している。